

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公開番号】特開2013-238471(P2013-238471A)

【公開日】平成25年11月28日(2013.11.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-064

【出願番号】特願2012-111178(P2012-111178)

【国際特許分類】

G 01 N 30/80 (2006.01)

G 01 N 30/26 (2006.01)

【F I】

G 01 N 30/80 F

G 01 N 30/26 N

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月1日(2014.9.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

なお、上述の供給流路15上に設けられた二方切替バルブ17には、希釈流路19が接続されている。前記二方切替バルブ17は、送液ポンプ16で吸引した液体をトラップカラム21又は希釈流路19のいずれに流すかを選択的に切り替えるものであり、そのeポートには送液ポンプ16から延びる配管(すなわち供給流路15の上流側部分)が接続され、fポートには第一ニードル18に至る配管(すなわち供給流路15の下流側部分)が、gポートには希釈流路19の一端が接続される。希釈流路19の他端は、第二ニードル31の近傍に設けられたT字型ジョイント35(図2では簡略化のため図示を省略している)を介して配管32に接続されており、これにより該希釈流路19を流れてきた液体(すなわち希釈液)を配管32内に流入させることができるようになっている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

その後、分取ヘッド37を更に上昇させていくと弾性部材33が伸長していき、これに伴って分取ヘッド37内の配管32が開口37aから引き出されていく(すなわち、吐出ノズル34の先端から分取ヘッド37の底面までの距離が長くなっていく)。そして、分取ヘッド37が所定の高さに到達した時点で弾性部材33の圧縮が解除されるため、そこから更に分取ヘッド37を上昇させることにより吐出ノズル34の先端が上昇し始め、最終的に回収容器42から除去される。すなわち回収用流路の出口と回収容器42との接続が解除される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】

